

(仮称) **今治版ネウボラ拠点施設整備
基本計画（案） 概要版**

令和6(2024)年○月

はじめに

基本計画策定の趣旨

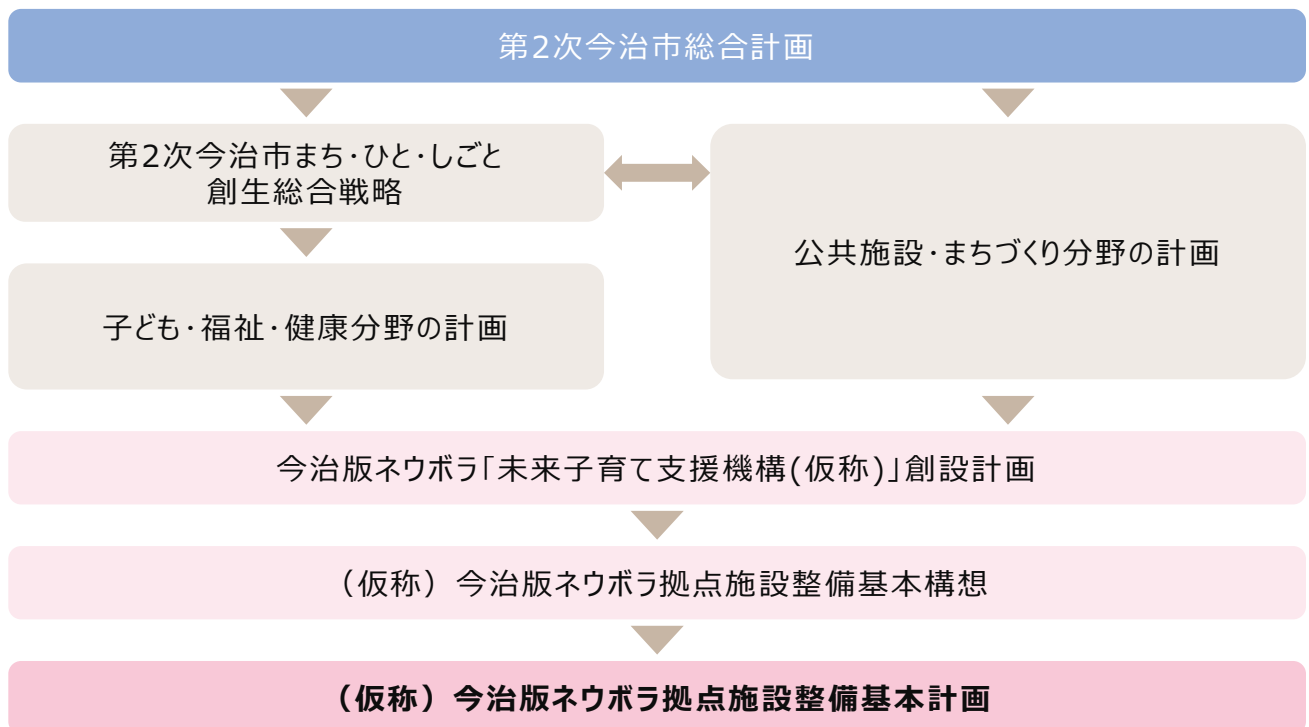
近年、子育てを取り巻く環境の変化は著しく、保育ニーズの増大、こどもへの貧困の連鎖など、さまざまな社会課題を背景に、子育て家庭への支援は一層重要度を増しています。

今治市(以下「本市」という。)においても、子育て世帯の複雑多岐にわたる問題に一元的かつ総合的にアプローチする体制をスタートさせたところですが、子育てに関する様々な施設が市内各所に点在しており、子育て世代が気兼ねなく相談できる伴走型支援体制の一層の強化が求められています。

また、かねてより、各種会議において、屋内外の遊び場所や楽しさやわくわく感が味わえる場所が欲しいという要望が多く寄せられていました。

このような背景から、本市では、令和5(2023)年3月に「(仮称)今治版ネウボラ拠点施設整備基本構想」を策定しました。本基本計画は、基本構想をもとに、新たに整備する施設の整備方針等の具体化を図るものです。

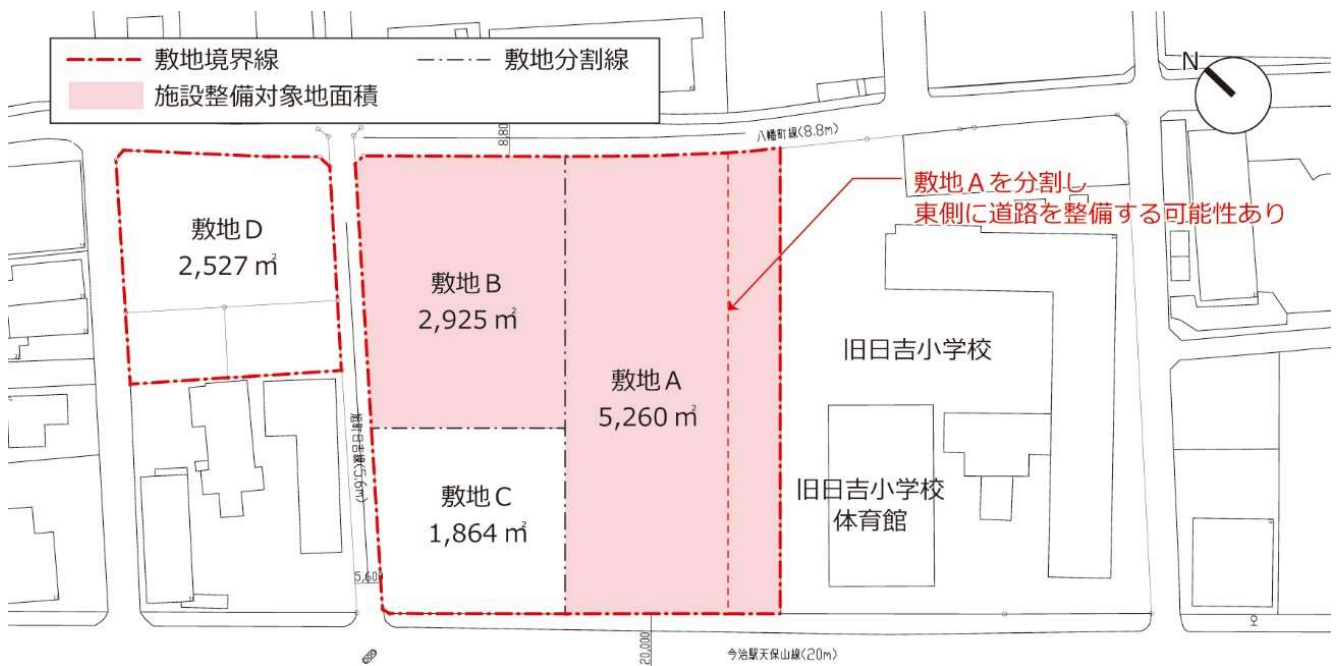
基本計画の位置づけ



敷地条件

- 基本構想では、面積や浸水想定等の面で**旧日吉小学校跡地(A)**の評価が高かった。
- **日吉公園(B)**は、より望ましい形での施設整備、相乗効果が期待できることから事業用地に含める。
- 中央公民館利用団体連絡協議会から、現在地周辺での**中央公民館(C)**建替への要望書が提出されたことを踏まえ、事業用地に含める。
- **旧働く婦人の家等(D)**は事業用地に含めるものの、**駐車場用地として利用**する。
- 敷地Aのうち、校舎などがある**東側部分**については、今後、中心市街地再生に向けて検討が行われることを想定し、**整備範囲対象外**とする。

旧日吉小学校の一部(A)と、隣接する日吉公園(B)、中央公民館(C)、旧中央乳児保育所、旧働く婦人の家(D)を含む一団の公有地



所在	今治市南宝来町一丁目1番地1、3、4、6番地1
敷地面積	約 12,576m ² (施設整備対象地面積：敷地A + 敷地B 8,185m ²)

事業実施方針等

拠点のあり方

基本理念・基本方針

つどい つながり はぐくむ みんなの居場所

～こどもが輝く未来を創る～

基本構想

はぐくむ

全ての子育て世帯が安心して交流し、気兼ねなく相談できる場所

子育て支援のハブとなる拠点

- 関連機関の集約・連携を通じて、子育て支援機能を強化・拡充する
- 子育ての象徴的な存在として関係部署・機関との円滑な連携を図るためのハブとしての役割を担う

つながり

成長や発達過程に応じて、支援を必要とする人に必要な支援が提供できる場所

こども・子育て世代を中心に誰もが利用できる拠点

- ソフト・ハード両面において、シームレスな、交流しやすい拠点とする
- 誰もが使いやすい全世代型の施設、全市から幅広く利用者を集める施設とする

つどい

大人も子どもも多世代が集い、わくわくと子育てを楽しめる場所

中心市街地におけるリーディングプロジェクト

- 多くの市民が利用する魅力的な場所とすることで、官民連携によるまちなかの賑わい創出などの再整備を先導し、周辺施設と連携し相乗効果を発揮していくことを目指す

事業の実施方針

ソフト

×

ハード

連携強化・体制づくり

今治版ニューボラ「未来子育て支援機構(仮称)創設計画」において目指す姿の具体化

サービス強化・拡充

交流、きっかけづくり、アウトリーチ、オンラインサービスの充実等、実施可能な取組を明確化

人をひきつける場

児童センター機能の拡張、公園、民間機能との連動をとおして、魅力ある場をつくる

多目的な場

複合化の特性等をいかにしながら、多目的な利用ができる施設とする

シームレスな場

敷地外からアプローチしやすい施設とする / 各機能がシームレスにつながるようにする

推進
方策

効率的な事業実施

複合化の特性を生かしたコンパクトな計画 / コスト面からも効率化

官民連携

PPP/PFIの活用検討 / オール今治で子育てを支えることを目指す

想定施設規模

〈 基本構想策定時に策定した4つの機能 〉

① 子育て世代活動支援センター

② 児童センター

③ 保健センター

④ 地域交流センター

新たな子育て支援機能

中央公民館 代替機能

これらを踏まえ、集約・複合化に関する検討を行い、現時点で想定される機能・規模について整理しました。

区分	機能	想定面積
① 相談・支援	子ども家庭総合支援拠点	約 450㎡
	子育て世代包括支援センター	
	発達支援センター	
① 地域子育て支援	地域子育て支援拠点	約 100㎡
	ファミリーサポートセンター機能	
	一時預かり機能	
② 児童センター	児童センター	約 1,500㎡
③ 健診・保健指導	保健センター	約 500㎡
④ 地域交流センター	地域交流センター（ホール等）	約 2,200㎡
- その他機能	カフェ等（想定）	約 350㎡
	エントランスロビー	
	トイレ（各階）	
	備蓄倉庫	
共用部分		約 2,750㎡
合計（建物部分）		約 7,850㎡
公園		約 3,000㎡
駐車場	全体で約150台 （敷地Dにおいて約90台、敷地A～Cにおいて約60台）	

* あくまで現時点での想定であり、今後変更の可能性があります。ホールの規模に関しては、現在の中央公民館のホールの規模を参考に設定しています。

* 複合施設の特性上、他の区分との共用等もあることにも留意が必要です。

* 駐車場に関しては、既存施設の利用状況、他市町村における同種施設の事例等を踏まえ台数を設定していますが、詳細は設計段階において確定するものとします。

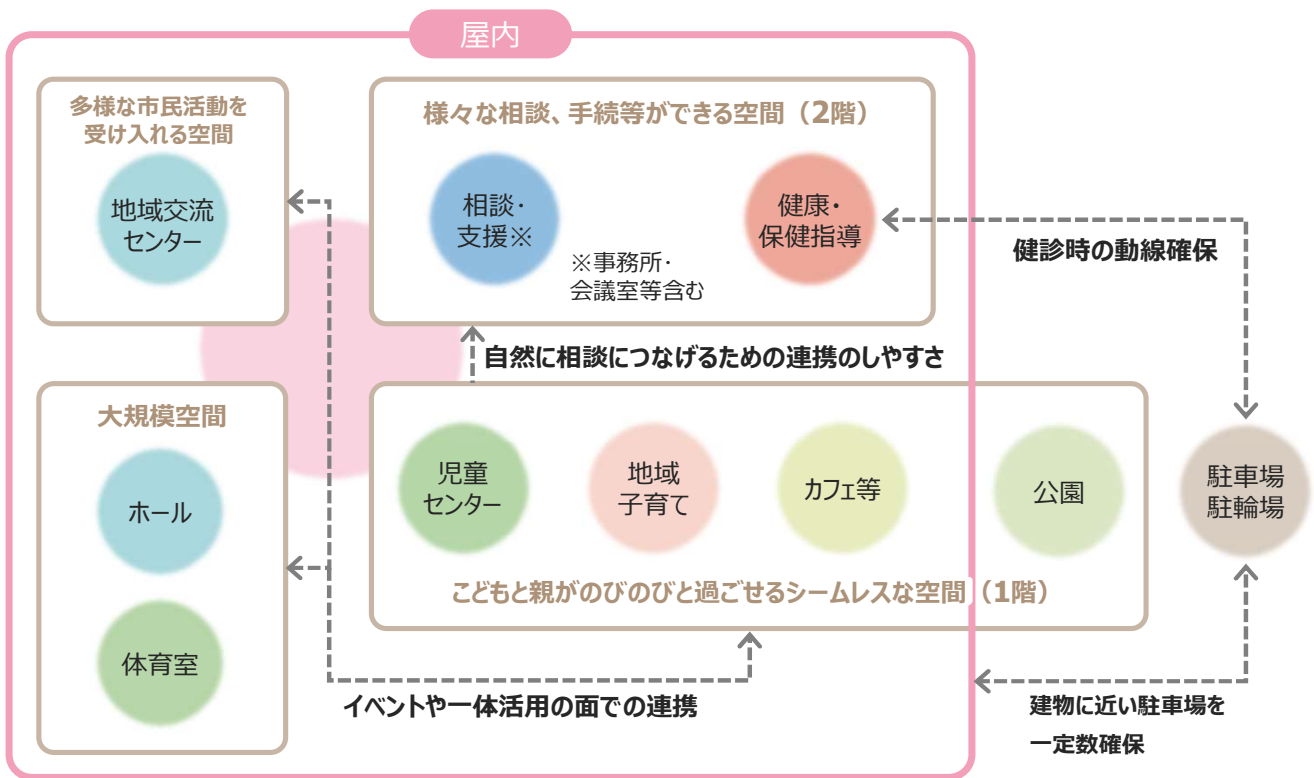
施設整備計画

施設整備の方向性

建物高さ、動線、周辺との関係性を考慮しつつ事業を進めます。
「防災」「環境配慮」「木質化」「インクルーシブ」等に特に留意します。

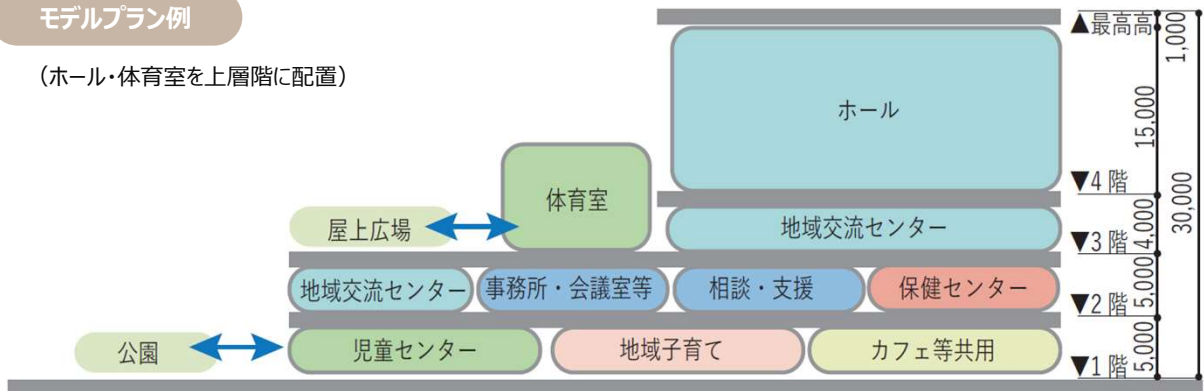
機能間の関係性

複合施設の特徴を活かした機能間連携の強化を図るとともに、相互連携が期待される機能を同一フロアに配置します。



モデルプラン例

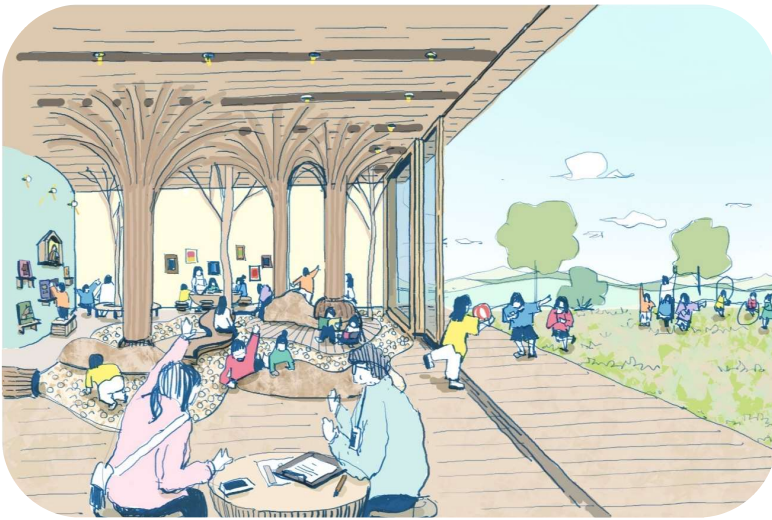
(ホール・体育室を上層階に配置)



施設整備計画

気軽に相談できる場所 / 利用者に寄り添った支援

施設利用イメージ



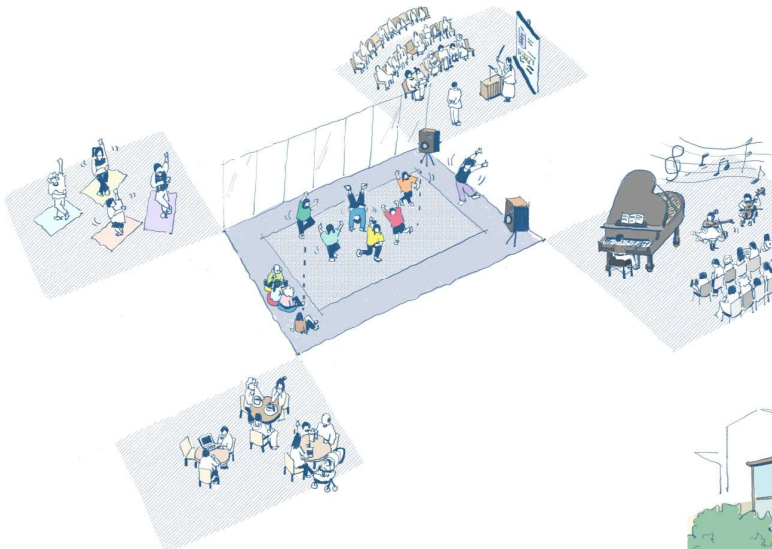
こどもを遊ばせながら子育てに関する相談ができるなど、相談のハードルを下げることにより、必要な人が必要な支援につながれるようにします

こどもの居場所 / 多様な活動のサポート

0歳～18歳までのすべてのこどもの居場所となる施設を目指します
特に、中高生に関しては、居場所だけでなく、自分らしい多様な活動をサポートできる拠点とします



多世代の活動・交流の場



地域交流センターの機能を最大限に活かし、あらゆる世代の活動・交流を支援します

中心市街地活性化の拠点

日常的にそれぞれの時間を過ごせる場所、まちに関わるイベントの場として、公園と施設が一体となった憩い、賑わいの空間を創出します



施設整備計画・管理・運営方針等

施設整備費想定

子育て支援機能	約 31 億円
保健センター機能、地域交流センター機能	約 40 億円
合計	約 71 億円

* その他、外構・公園工事費、既存施設解体工事費、調査・設計費、備品等の費用が別途必要になります。
 * いずれについても現時点で一定の前提のもと設定したものであり、今後大きく変更になる可能性があります。

管理・運営の考え方

..... (施設のあり方)

子育て支援の
ハブとなる拠点

こども・子育て世代を中心に
誰もが利用できる拠点

中心市街地における
リーディングプロジェクト



..... (管理・運営の目標)

困っている人が
相談しやすい
場所とする

子育て支援に
関わる人や主体を
増やすための
場所とする

世代を超えて
思い思いの
活動ができる
場所とする

日常的な憩い、
賑わいのある
場所とする

(管理・運営方針)

一体的な
管理・運営

施設を活用した
イベント等の
積極的な実施

「オール今治」を
目指した
多様な主体との
パートナー
シップの構築

民間ノウハウの
活用

事業手法、今後の進め方

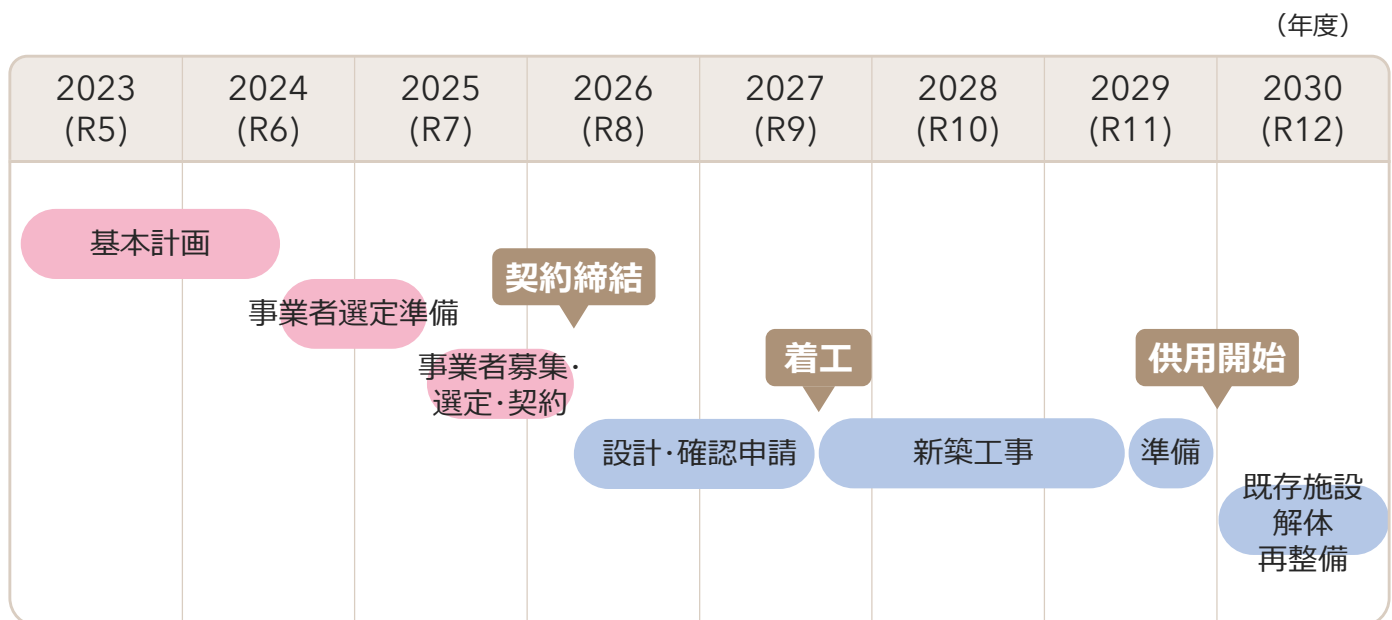
事業手法の選定

本事業において想定される事業手法について、定性的・定量的なメリット・デメリットの比較を行った結果、「DBO(Design Build Operate)方式」が望ましい手法として考えられます。

DBO方式 | 民間事業者に施設の設計、建設に加えて、維持管理・運営も一括発注を行う手法

想定スケジュール

2030年度の供用開始を目指します。



* DBO方式を採用した場合に想定されるスケジュール



(仮称) **今治版ネウボラ拠点施設整備
基本計画（案） 概要版**

令和6(2024)年〇月

〈 発行 〉

今治市 こども未来部
こども未来政策局 ネウボラ政策課